

## あおぞらだより

第 153 号 (発行/平成 28 年 2 月)

### 節分

#### 覚醒剤

江戸川病院院長 新村ヨシオ



ほころび始めた梅／院庭

覚醒剤は精神活性物質のひとつであり、精神刺激作用がある。覚醒剤を乱用すると急性中毒、依存症、精神病になる。使用すると一時間以内に精神運動興奮、気分発揚、多幸、万能感、多弁、不安、焦燥等の精神神経症状が出現する。身体症状としては、不眠、食欲減退、頻脈、血圧上昇、震戦などが惹き起こされる。常

習すると使用量は多くなり、渴望が強くなるので使用を抑制できなくなる。耐性が生じると数十倍の覚醒剤を使用しないと効果が得られなくなり、大量に使用すれば些細なことに過敏になり、易怒的、情動不安定になり、食欲減退になり痩せて、身体的にも疲憊状態に陥る。更に使用量も増加すると静脈注射を打つようになり、数か月で精神病となって幻覚妄想状態になる。中止しても精神病が残ってしまう者も多い。消失しても飲酒、不眠、過労が続くと再燃(フラッシュバック)することもあり、社会復帰して真面目に働いているのに、ストレスや飲酒などで再燃して再逮捕されることもある。覚せい剤は恐ろしい薬物である。

覚醒剤については報道されることも多いし、「ダメ。ゼッタイ。」運動として学

校でも啓蒙しているので、その恐ろしさは周知しているはずである。隠語では「シャブ」と言われており、薬によって体中をしゃぶり尽くすように蝕むということでシャブと名付けられたと聞いている。闇の世界でも覚醒剤は怖いものという認識があったからこそこの名付けであろう。そもそも戦中には特攻隊員に使用したり、戦後でも混乱期に激増し、昭和 26 年に覚醒剤取締法が制定された。麻薬も蔓延し、昭和 38 年に麻薬取締法が強化された。その後は睡眠薬遊び、有機溶剤、LSD、マリファナと依存する薬物は変化してきた。しかし覚醒剤は根強く、製造工場が摘発されたり、密輸で逮捕されるとルートを解明し、麻薬 G メンの活動も紹介され、全国に密売集団が存在していることがわかってきた。覚せい剤は密輸が多いようで、水際で食い止めようと行政も必死で取り組んでいる。

覚醒剤が蔓延するのは世相もあるが、やはり購入するものがあるからである。少量で高額になる為売人に見れば高収入になるので、危険を冒しても一攫千金を狙うであろう。しかし、流通は闇ルートになるので、やはり反社会的勢力しか扱えないと思う。それを買う者も百も承知しているのだろうが、利用したい衝動に負けてしまうのであろう。手を染める契機は様々のようだが、友達に勧められた、疲労回復剤とか憂鬱の治療剤などと、誰でも容易に手を付けやすい理由が始まりである。怖いところは初めて使った時は気分が高揚し楽しくなる上、爽快感や多幸感といった幸福感を味わってしまったことが常用者になるようだ。逆に気分不快、悪心、嘔気、動悸など苦しみを体験した人は単発で終わるのであろう。体質によって救われる人もいる。

覚醒剤で人生をふいにした人は多い。名声を得た人でも中毒者になるのだ。人気も高く実力のある女性歌手、有名な芸人やミュージシャン、最近では元プロ野球選手が逮捕された。本当に驚かされたので、自身も再考させられた。感性を磨きたい、芸術性の創作能力の向上などを常用の理由を述べるが、薬の力で得られた能力で完成しても、達成感や充実感になるのかを思考できなかったのか。いくら限界を感じ追いつめられていたからと、もっともな口実を述べても、我々は納得できない。孤独感が強く、寂しい、気分が落ち込んでいたというが、これだけ高名な人たちには人が集まってくるはずである。孤立する前は別な理由で人が離れていったのではないかと勘ぐってしまう。有名な人でも引退した後に足跡とは別な社会貢献をしたり、世間と繋がりを持って孤立しないように努力している。常に人の意見に耳を傾け、身近な人には敬意を払い謙虚になってお付き合いすることで、孤独から避けられるはずである。覚せい剤はぜったいだめである。

# 節分

デイケアで行われた  
節分の様子です。



↓福豆や甘納豆など、  
いろいろな豆で鬼退治。

↑みんなで記念写真。  
赤おにの額には  
「インフルエンザ A 型」  
の文字が。  
この後退治されました。



## E 病棟 空調工事のお知らせ

E 病棟では、現在空調設備の工事を行っております。工期は3月初旬までを予定しております。ご来院の皆様にはご不便をお掛け致しますが、ご理解・ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

編集後記：立春は越えましたが、相変わらず車のフロントガラスに張った氷をお湯で溶かす朝が続いています。そんな中、院内の梅は少しずつほころび始めています。(医療相談室)

『あおぞらだより』に関するご意見・ご感想・ご投稿などは『医療相談室』までお寄せ下さい。(内線 238)

医療法人社団全生会 江戸川病院  
〒278-0022 千葉県野田市山崎2702  
電話 04-7124-5511(代)  
<http://www.edogawa-hp.com>